

第11回 『古今著聞集』

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

式部の大輔大江匡衡朝臣の息、式部の権の大輔拳周朝臣、重病をうけて、たのみすくなく見えければ、母赤染

右衛門、住吉に詣でて、七日籠りて、「このたび助かりがたくは、すみやかにわが命に召しかふべし」と申し、

七日に満ちける日、御幣のしでにかきつけ侍りける。

かはらんと祈る命は惜しからでても別れんことぞかなしき

かく詠みて奉りけるに、
A やありけん、拳周が病よくなり、にけり。母下向して、喜びながらこの様を語るに、

拳周いみじく嘆きて、「我生きたりとも、母を失ひては何のいさみかあらん。かつは B の身なるべし」と思ひ

て、住吉に詣でて申しけるは、「母我にかはりて命終はるべきならば、すみやかにもとのごとくわが命を召して、

母を助けさせ給へ」と泣く泣く祈りければ、神あはれみて御たすけやありけん、母子ともに事ゆゑなく侍りけり。

語句

○いさみ「勇み」名 ①勇気・気力 ②任侠心のあること・人
○かつ「且つ」副 ①「方ではくし、他方ではくする」

△二つの事柄が同時に進行していることを表す

②すぐに、次々に、二つの事柄が連続して行われることを表す
接 また、そのうえ、

○ことゆゑ「事故」名 ざしなわり、事故、